



新見市男女共同参画情報紙

りぼん



～無意識の思い込みありませんか？～

突然ですが、質問です!!

(あまり深く考えず、直感で回答してみてくださいね。)

Q1

赤いランドセルの忘れ物がありました。

2人のうちどちらのものだと
思いますか？



Q2

取引先の人と名刺交換します。

2人のうちどちらと先に
名刺交換しますか？
(どちらが上司だと思いますか？)



あなたは、どのように答えましたか？また、そのように思った理由は何でしょうか。

赤いランドセルは女の子の物、同じくらいの年齢であれば男性の方が上司ではないか。
無意識のうちに、そのような考えになってしまいませんか。

今回は、そんな無意識の偏見「ジェンダー・バイアス」について特集します。

そもそも、「ジェンダー・バイアス」って、なに？

性別による無意識の思い込みを「ジェンダー・バイアス」と言います。

表紙のクイズの他にも、「看護師」「保育士」「受付」と聞くと女性を思い浮かべる、男性が育児休暇を取っていると「奥さんは？」と思う、などの経験はありませんか。そういう無意識の思い込みや考え方のクセが、ジェンダー・バイアスです。

ジェンダー(gender)は「男性だから（女性だから）といった社会的、文化的な性差」のこと、バイアス(bias)は「偏見・先入観」のことです。ジェンダー・バイアスのほかにも、日常の中にある様々な分野での偏った見方を総称して『アンコンシャス・バイアス』と言います。

家庭で



- 結婚報告をすると「夫側の苗字になるんだよね」と当然のように思われて、妻側が苗字を変える前提で話をされた。
- 子どもを病院に連れて行ったら「お母さんは今日来ていませんか？」と聞かれた。
- 「男だったら家庭を持って一人前」と言われた。
- 「やっぱり子どもが熱を出したらお母さんが看病するよね～」という発言がさらっと会話に出てくる。



「家事・育児は女性がするべきだ」といった、偏った考えが隠れているね。

「男性は結婚して家庭をもって一人前」「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」のような『大黒柱バイアス』に苦しんでいる男性もいるのではないかな？

教育で



- 何かをさせられたり、無茶ぶりをされるのは大抵男子生徒。男性なら何をやっても、言ってもOKという雰囲気がある。
- 「女性は結婚して出産するのだから、大学に行かなくても良い」と親戚から言われた。
- 理工系学部出身の女性が「女性なのに珍しい」と言われていた。

「男性は弱音を吐かない」「女性には高い学歴やキャリアは必要ない」「女性に理系の進路（学校・職業）は向いていない・苦手」といった、偏った考えが隠れているね。



あなたの周りでも、こんなことありませんか？

職場で



- お菓子などを頂いたとき、配る役目を「女性だから」という理由で当然のようにさせられる。
- 来客へのお茶出しは「女性が淹れた方が美味しい」という理由で女性職員に押し付ける。
- 「男だから正社員で働きなさい」と言われた。
- 「女性の上司には抵抗がある」と言われた。
- 「女性だから子育てを優先してね」と言われ、重要な仕事を担当させてもらえない。



「お茶くみや掃除などの簡単な仕事は女性がするべき」「女性は正規雇用にこだわらなくていい」「男性は家庭より仕事を優先するべき」といった、偏った考えが隠れているね。

能力があるのに不當に昇進を阻まれる『ガラスの天井』といった言葉もあるよ。



地域で



- 宴会などで、男性は飲み食いするだけなのに、女性はお酌をしたり料理をしたりなど、自分から仕事を見つけて動くくらいの積極性や気配りを求められる。
- 町内の集まりでは男性の名前が当然のように記入される。
- 自治会長を選ぶときに「男性が会長、女性が副会長」「集会では女性は早く来てお茶の準備をするように」と言われた。



「親戚や地域の会合で食事の準備や配膳をするのは女性の役割だ」「自治会や町内会の重要な役職は男性が担うべき」といった、偏った考えが隠れているね。

地域の慣習や風習の中には「家」制度の意識が残っていて、女性であることの不利益や差別的な扱いが残っているね。反対に「男性だから」といって役割を押し付けるのも良くないよね。

他にも

- 「男の子だから泣くな」「男だから立ち向かえ」といった声掛け。
- 相手を思いやり行動した事で「女性らしい細やかな気遣い」という言葉をもらった。好意的な言葉だったが、引っかかりを感じた。同じ行動を男性がした時には、「仕事ができる」という評価になっていた。



「男性は人前で泣くべきではない」「女性には女性らしい感性があるものだ」といった、偏った考えが隠れているね。

日本では「男は男らしく、女は女らしく」といった「〇〇らしい生き方」を様々な場面で強要されるけれど、「らしさ」の枠にとらわれず、「相手」や「相手らしさ」としっかり向き合って受け入れてみよう。



いかがでしたか？

みんなの周りにも、様々なジェンダー・バイアスがあるのではないでしょうか。性別で役割を押し付けられたり、無意識の偏見から言われたりされたりしたことで、悲しい思いをしたことがあるかもしれません。

令和の時代は多様性の時代ですので、色々な思いや考えはあっても良いと思います。ですが、性別によって決めつけたり、それを他の人に強制したりすることは良くありません。

色々な考え方はあってOK！
だけど、それで他人を傷つけたり、
強制したりすることは
良くないよね！

まずは、あなた的心にある「無意識の思い込み」に、 気づくことから始めてみませんか？

編集後記

編集委員 谷岡 奈央

「たまがき」は、私たちに中世の口マンを残してくれました。
きっと素敵な人だったに違いありません。

私は、市外の方に「たまがき」について説明する時、しばしば「女性の」「農村の」という修飾語をつけてきました。

修飾語は理解を助けますが、反面、聞き手に「バイアス」を植え付けてしまったかも知れません。
今回のりぽんでは、「ジェンダー・バイアス」を特集しました。「思い込みをする人はある考え方方に執着し、世の中の見方が違ってくる」とは、言い得て妙です。

私にも思い当たる所が多々あります。

読者の皆様は、何かお気づきになられたでしょうか？